

(別添2)

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別 保育所
事業所名 たかやま保育園

第三者評価の判断基準

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 全体的な計画の作成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 全体的な計画は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて作成している。 ■ 2 全体的な計画は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて作成している。 ■ 3 全体的な計画は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して作成している。 ■ 4 全体的な計画は、保育に関わる職員が参画して作成している。 ■ 5 全体的な計画は、定期的に評価を行い、次の作成に生かしている。 	○たかやま保育園は信州幼児教育振興指針（長野県幼児教育のあり方検討会）を基本として保育理念を掲げている。これを受け、たかやま保育園としての全体的な計画や保育課程を職員も参加して作成している。 ○子どもの発達過程・地域の状況等を考慮して編成されており、合わせて当園の目標である「生きる力を育てよう」の実現のため指導計画が作成されている。 ○年度当初には職員全員で、内容や職員としての課題を確認している。また、年度末には、全体の評価・見直しを実施して次年度の作成に生かしている。
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。		<ul style="list-style-type: none"> ■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 ■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 ■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 	○室内の温度や湿度は担当が調整している。室内にはエアコン、天井扇風機、壁面扇風機（冬場は取り外す）、ストーブで快適に過ごせるようになっており、天井が高く明り取りもある。 ○寝具は押し入れにきちんと収納されている。また遊具は決められた場所に置いている。 ○お話コーナーが二か所あり、本は造り付けのベンチや椅子で読むことが出来る。また、木のままごとや本物の鍋、牛乳パック等で作ったおもちゃがあり工夫されている。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1	(2)	①	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 9 内装等には、木材を利用している。 ■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 ■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 ■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。 	<p>○園庭のままごとセットは専用の小屋があり、ほかの遊具も子どもが自分で片付けていた。砂場は普段はブルーシートをかぶせている。定期的な遊具の点検や業者による年1回の点検・修理が行われている。</p> <p>○内装は可能な限り木材が利用されている。</p> <p>○園全体が広々としていて、ゆったり過ごせる空間になっている。帰り時間の前の遊びでは、年少組男子が廊下で大型ブロックで心地よく遊んでいた。</p> <p>○食事はクラスにより座り方が違っていた。3歳児クラスはコロナ禍以降継続して教室並びで食べていた。午睡はカーテンで暗くして寝やすくなっている。</p> <p>○手洗い場・トイレは各保育室から利用しやすい位置に配置され、明るく安全が配慮されている。</p>
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。 ■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。 ■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。 ■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。 ■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。 ■ 18 せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。 	<p>○年長では支援が必要な外国人の子どもには、英語が話せる人が担任になり、外部の機関の協力を得て支援していた。</p> <p>○三歳児クラスでは保育士が日々の生活の中で気持ちを聞こうとしている姿勢や言葉をきちんと受け止めようとする姿が見られた。</p> <p>○保育士へのインタビューでは声がけの仕方、気持ちを汲み取ろうとしている姿勢が読み取れる。</p> <p>○お昼の時間、障がいをもった子どもが絵を描き終わらずにいたが、絵を中止することを強制せずにやさしく対応していた。</p> <p>○視察の現場では保育士が穏やかな口調で話す姿を確認した。</p> <p>○インタビューで保育士がせかすようなことばを使わないようにし、怒らないようにしていると回答していた。利用者アンケートでは、一部職員の言葉使いを優しくしてほしいという要望がある。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント	
A	1	(2)	③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	■ 19	一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。	<p>○食事の時間では同じ年齢でも、箸やフォークなどを発達に合わせて使っていた。お絵かきの時間では、職員が一人ではできない子どもの補助をしながら援助していた。</p> <p>○全体的な計画で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として明示し、「生きる力を育てよう」を目標に日々の保育で具体的に尊重し援助している。</p> <p>○支援の子どもがクレヨンを落とした時、本人が自分で拾うまで主体性を尊重し待っている保育士の姿が見られた。</p> <p>○部屋に箸の持ち方の張り紙が貼ってあり日本的な配膳の仕方を丸印ナプキンで身に着けるようにしている。</p>
			■ 20		基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。		
■ 21	基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。						
■ 22	一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。						
■ 23	基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。						
		④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	■ 24	子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。	<p>○園内外で、本物の鍋やお玉を使って遊んだり、トイレットペーパーや牛乳瓶の蓋など身近なもので遊べるようになってきている。</p> <p>○自由遊びの時、粘土、ジグソーパズル、お絵かきなどをしていった。社協から知育玩具をクリスマスプレゼントとしてもらっている。また保育士持参の小1で使う算数セットで遊んでいた。</p> <p>○外遊びの時間があり、自分から動けない子どもには保育士が手をつないで一緒に遊具などに誘導し援助する姿があった。</p> <p>○戸外遊びの時間が確保され、各学年がそれぞれで自由に遊んでいた。</p> <p>○トラブルがあった時には、保育士が相手がどんな気持ちだったかを伝えようとしていた。</p> <p>○砂場遊びで一緒に穴を掘ったり、発表会に向けての取り組みを援助していた。</p> <p>○いけないときは注意したり、お友達に謝っている場面を確認した。社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。</p> <p>○「信州やまほいく」に認定を受け散歩などを通して、自然と触れ合うようにしている。</p>	
■ 25	子どもが自発性を発揮できるよう援助している。						
■ 26	遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。						
■ 27	戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。						
■ 28	生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。						
■ 29	子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。						
■ 30	社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。						
■ 31	身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。						

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1	(2)	④		<ul style="list-style-type: none"> ■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 ■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。 	<p>○年長組は、野菜苗の買い出しをしている。コロナ禍で中断していた地域の方の協力隊と一緒にサツマイモ植え込みから収穫祭まで行っていた。</p> <p>○NPIC（長野体育指導センター）の指導によるマット運動では、普段とは違う経験ができています。</p>
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 ■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。 ■ 36 子どもの表情を大切にし、応答的な関わりをしている。 ■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 ■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 ■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。 	<p>○11か月の乳児がいる。床はバリアフリーで安心して歩行できる。</p> <p>○11か月の幼児は立ち上がりよちよち歩きをしている。常に目配りをして安心できるよう配慮している。</p> <p>○保育士に抱きついてくる乳児が多く乳児の顔を見て会話をし安心できるよう配慮している。</p> <p>○年齢に適したおもちゃ類が多く興味と関心を持てるよう配慮している。</p> <p>○乳児の行動を見守り、欲求の表現に気づき、優しい言葉で応答している。</p> <p>○お迎えの時、その日の様子を話す保育士の姿が確認できた。</p>
			⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分ですりとする気持ちを尊重している。 ■ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 ■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 ■ 43 子ども自身の自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 ■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの仲立ちをしている。 	<p>○一人ひとりの子どもの状況に応じ、気持ちを大切にしている。人見知りで泣きだしたら、保育士が抱き寄せ、やさしく話しかけている。</p> <p>○床暖房なので、登園すると靴下を脱ぎ裸足で行動している。隣の保育室と内扉で繋がっており、組に関係なく行き来できる。</p> <p>○安心して自発的に活動している。保育室から直接にベランダに出られるようになっていて園庭の砂場で遊ぶことができる。</p> <p>○一人ひとりの自我の気持ちを受け止め、生活に必要な行動が少しずつできるように援助している。</p> <p>○保育士の目が行き届いており、友だちとの関わりの仲立ちをしている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1	(2)	⑥		<ul style="list-style-type: none"> ■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを 図っている。 ■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組 や配慮がされている。 	<p>○異年齢や保護者との関わりを大切にしている。</p> <p>○家庭とは連絡帳のやり取りがある。廊下の壁に園の様子や写真等のドキュメントが掲げられ配慮している。</p>
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。 	<p>○NPICのマット運動を先生が行うポーズをまねて、楽しそうにやっていた。当日は寒かったが、ジャンパーなどを着て外遊び。砂山を何度も上り下りしたり滑り台などで遊んでいた。</p> <p>○外遊びでは砂場でおままごとや男児たちが協力して穴掘りをしていた。集団活動で保育士が適切に関わっている。</p> <p>○廃材を利用した作品が展示されていた。自由画製作ではそれぞれが自分が描きたい絵を描き、障がいのある子どもは、粘土で作ってあった手足の長い巨人を見ながらそれと同じ絵を描いていた。発表会に向けてのハロウィンのミニチュア版のお化けの人形で何人かで遊んでいた。</p>
			⑧ 障がいのある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 51 建物・設備など、障がいに応じた環境整備に配慮している。 ■ 52 障がいのある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 ■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 ■ 54 子ども同士の関わりにも配慮し、共に成長できるようにしている。 ■ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 	<p>○インクルーシブな環境で保育士が見守り配慮している。</p> <p>○個別指導計画を確認しクラス等の指導計画と連動させている。</p> <p>○加配の保育士が、見守りをしながら保育している。</p> <p>○クラスの中でその子らしく、一緒に出来るように配慮している。</p> <p>○保護者の理解を得て、加配職員と共に支援している。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1	(2)	⑧		<ul style="list-style-type: none"> ■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 ■ 57 職員は、障がいのある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 ■ 58 保育所の保護者に、障がいのある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的に外国人の年長児のために須坂市の特別支援学級の職員と子供支援の保健師が訪問し相談や助言を受けている。 ○12月に障害児担当保育士研修と3月に障害児保育のキャリアアップ研修が計画されている。 ○別の施設と保育園の両方に通っている児童がおり、保護者と共に、見守り育てる取組をしている。
			⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。 ■ 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。 ■ 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。 □ 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。 ■ 63 子どもの在園時間や生活リズムに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。 ■ 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。 ■ 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一日の流れが決まっていて、落ち着いて生活できるようになっている。延長保育は、時間帯により集まる部屋を少なくしている。 ○ゆったりとした落ち着いて生活している様子が見られた。 ○インタビューでは無理強いないようにしている。うまく伝わらないときはやり方を変えてみるよう配慮している。 ○インタビューでは異年齢のかかわりを特に意識していないが、一緒に過ごすことを意識した配慮があった方がいいという職員の意見があった。 ○生活リズムに配慮した提供になっている。 ○ケガ等特別な場合は、担任が残って直接保護者に伝えている。通常の場合は連絡ノートにメモしたり、延長の職員にメモを渡して伝えている。 ○お迎えの時は、保護者と話している姿を確認した。利用者アンケートでは延長保育の場合、担任の保育士と話す機会を持ちたいという要望があった。
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。 ■ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間計画に位置付けて、幼保小連絡会の機会が設けられている。 ○小学校体験交流として小・授業参観交流が行われている。 ○音楽会、運動会、保育参観等で小学校との連携を図っている。 ○教育支援委員会、要保護児童対策地域協議会により支援が必要な子どもについて切れ目ない支援が丁寧によく行われている。 ○児童保育要録は関係する職員が参画し適切に作成されている。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1	(2)	⑩		<ul style="list-style-type: none"> ■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。 ■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。 	
		(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 ■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 ■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 ■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 ■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 ■ 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 ■ 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 ■ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。 	<p>○ケガ等特別な場合は、担任が残って直接保護者に伝えている。通常の場合は連絡ノートにメモしたり、延長の職員にメモを渡して伝えている。</p> <p>○年間の保健計画が作成されており、保護者にも健康診断・歯科検診・発育測定等知らせている。</p> <p>○保育園入園のしおりに、「健康な生活のために」として健康状態について、インフルエンザ等の感染症のときの治療報告書について記載されている。</p> <p>○保育中のけがや体調不良の時は、緊急時はすぐに保護者に連絡し、様子を観察していた時はお迎えの際口頭で伝えている。</p> <p>○お昼寝時、5分ごと確認している。その時の顔の向きを矢印で記入し記録している。</p> <p>○SIDSの対応については高山村公立保育園における危機対応要領に定められている。職員はそれに従った必要な知識を有しており、保護者へは情報提供している。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1	(3)	② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。 ■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。 ■ 81 家庭での生活に生かされ、保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。 	<p>○健康診断・歯科検診など年間計画に沿って実施し、医者からの結果は個別台帳に記載して保護者に渡している。発育測定は毎月実施して、保護者に知らせている。</p> <p>○昼食後の歯磨きを実施して、虫歯予防に努めており、子どもたちは、昼食が終わると歯磨きを済ませてから遊ぶ様子が確認できた。</p>
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。 ■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。 ■ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。 	<p>○重要事項説明書で配慮が必要な場合は子どもに合わせる対応をしている。「食物アレルギー対応マニュアル」は作成中である。</p> <p>○エピペンは用意してある。「食物アレルギー対応マニュアル」を完成し、その内容の理解を図る取り組みを期待する。</p>
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。 ■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。 ■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。 ■ 91 食器の材質や形などに配慮している。 	<p>○たかやま保育園食育バクバク隊計画書を作成し年間を通じて、手洗い、バランス等さまざまな経験ができるよう工夫している。</p> <p>○職員は一緒に食事をとりながら、お代わりや、食が細い児童には声がけをしていた。</p> <p>○ナプキンに、はしや茶碗、お皿の置き場所が分かるよう保護者に書いてもらっている。発達状況により、箸やフォークの使用ができるよう援助していた。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1	(4)	①		<ul style="list-style-type: none"> ■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 ■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。 ■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 ■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。 	<p>○食べられないものには、かんばってみようと保育士が声掛けをしていた。</p> <p>○配膳の時、食べられる量を聞きながら盛り付けしていた。</p> <p>○近くの畑で野菜を作っている。当日焼き芋大会の準備がされていた。</p>
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 ■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 ■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。 ■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 ■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 ■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 ■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 ■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 	<p>○栄養士の献立は毎月献立会議により工夫されている。高山村特産のりんごや梨を利用し「ぼたもち」や「おはぎ」などの季節感のある献立になっている。利用者調査では食事の満足度は高い。</p> <p>○中心温度計の校正記録について2点を測定し、定期的に計測した記録を残すことを推奨する。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	2 子 育 て 支 援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 ■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 ■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 ■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。 	<p>○2歳児までは、連絡ノートにコメントを記入。3歳児以降は、必要な時にはコメントを残すが、通常は、お迎え時などに口頭で伝えている。延長の家庭には、週一回の遅番の時に伝えるようにしている。</p> <p>○月一度ドキュメンテーションを活用して、政策などをアップしている。ホワイトボードに園のお知らせをしている。ドキュメンテーションを更に活用するためのノンコンタクトタイムの確保が出来るよう期待する。</p>
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。		<ul style="list-style-type: none"> ■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 ■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 ■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 ■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 ■ 112 相談内容を適切に記録している。 ■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。 	<p>○日々のコミュニケーションでは、特にケガをしたときは電話連絡をすることになっている。事態によっては担任が延長時間まで残って伝えている。</p> <p>○延長保育の場合、担任の保育士との相談を気軽にしたい要望がある。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	2	(2)	② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 ■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 ■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 ■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 ■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 ■ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 ■ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。 	<p>○重要事項説明書で虐待防止のための措置として、虐待防止マニュアルを作成・運用し、職員に対して研修を実施しているとしている。</p> <p>○家庭状況の変化の把握に努め、子どもの表情や様子に注意を払っている。また、発育測定時には身体の様子や発育状況を確認しており、疑いや気になる点がある場合は、園長に報告し、児童相談所等の関係機関につなげることになっている。</p>
A	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。 ■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 ■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 ■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 ■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 □ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。 	<p>○保育計画については週案は年齢別に作成し、「主な活動」「環境・構成・配慮事項」のあと「反省・評価」で振り返っている。月案は行事や個別の子どもの様子を振り返っている。</p> <p>○正規職員は人事評価の中で自己評価を定期的実施している。非正規職員は人事評価としての自己評価はされていないが面談で確認することになっている。</p> <p>○個人レベルの保育士等の自己評価を保育所全体の保育実践の自己評価につなげる点については、次年度の全体的の計画に反映されているが、その過程のプロセスの記録を明確化することを期待する。</p>